

登録簿(鳥獣保護管理プランナー)

登録番号	P09024		
(ふりがな) 氏名	やまなか まさみ 山中 正実		
連絡先	名称	公益財団法人 知床財団	
	役職	特別研究員	
専門分野	鳥獣保護管理プランナー		
専門とする鳥獣	<input type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input checked="" type="checkbox"/> ツキノワグマ <input checked="" type="checkbox"/> ヒグマ <input type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input type="checkbox"/> 外来種 () <input checked="" type="checkbox"/> その他 (トドほかアシカ科、アザラシ科)		
主な活動地域	<input checked="" type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input type="checkbox"/> 関東 <input type="checkbox"/> 北陸 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 近畿 <input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> 四国 <input type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄		
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>1987年以来、一貫して知床半島を中心とする北海道内のヒグマ、エゾシカの保護管理の現場で活動するとともに、それらに関わる各種管理計画の立案検討の場にも関わってきた。最近では、国立公園やその他の一般地域についても、野生動物の包括的な管理計画の立案に関わることが多くなっている。蹄脚類の調査や保護管理の現場経験も長い。</p>		

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合には、当該利用者に関り情報の提供をします。

鳥獣保護管理プランナー

山中 正実

公益財団法人 知床財団

対象鳥獣

ヒグマ

活動地域

北海道
枝幸町

● 事業内容

北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣制度を用いた
「ヒグマ対策」

■ 事業の背景

北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣制度※に基づき、環境生活部自然環境局野生動物対策課ヒグマ対策室、および枝幸町からの依頼を受けて2023年5月12～13日に協議と現地視察・調査を行った。枝幸町問牧川下流部の人家や漁港の付近に、サケマスを捕食するためにヒグマが頻繁に出没して対策に苦慮しているとのことであった。

※北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣制度

北海道が実施している、ヒグマによる人の生活圏への頻繁な出没や農業被害の継続的な発生など、緊急又は解決が困難で、専門的な対応の必要性が高い事案に対し、事前に登録したヒグマに係る捕獲・防除対策などの専門家を現地に派遣し、専門的見地から調査、捕獲、追い払いなどのアドバイス等を行うなど、事態沈静化に向けた支援を行う制度。

実施した内容

事前の打合せ

枝幸町から資料および自動撮影カメラによる画像に基づいて説明を受けた。2021年以來、遡上しているカラフトマスを捕食するために、河口の国道の橋周辺(図1, 2)に複数のヒグマが出没している。道路や人家が近く、夜間の出没が多いために銃器による捕獲が難しいため、箱ワナによる捕獲を試みているが、最も頻繁かつ大胆に出没しているオス成獣はワナには入らず、苦慮しているとのこと。

現地視察・調査

役場で協議を行った一同で現地を視察し、現場の環境などを把握した。現地調査では、現場の川の河口から川沿いに踏査を行なった。



図1 問牧橋下流



図2 問牧橋上流側の淵と左岸の住宅

調査結果・

捕獲に関するアドバイス

サケマスの産卵適地が上流側にあり、その周辺に道路や人家などがいないため、秋の食いだめの最盛期には日中でも採餌している可能性が高いこと、及び、射撃の安全上の懸念もないことから、2カ所の射撃適地を選定して地元猟友会による銃器を用いた捕獲方法をアドバイスした(図3)。



図3 問牧橋から三笠山橋までの踏査結果と射撃適地の指摘



図4 電気柵の配置案。赤い点線が電気柵の配置。
赤の実線は川を横断するすだれ状の電気柵。

調査結果・防除に関するアドバイス

河口付近の人家や漁業施設への接近や侵入を防ぐための電気柵の配置についても適切な案を提示した(図4)。威嚇弾による追い払いの手法等についても具体的な案を示した。

事業の成果

枝幸町役場では自動撮影カメラでヒグマのモニタリングを実施しており、本活動の調査・意見交換後にヒグマの出没が確認されなくなったため、令和5年度は実際に上記のアドバイスを基にした対策は実施されなかった。

しかし、再びヒグマが出没する可能性はあるため、状況に応じてアドバイスを実行することを検討されている。